

「広報よこはま」の紙面変更について

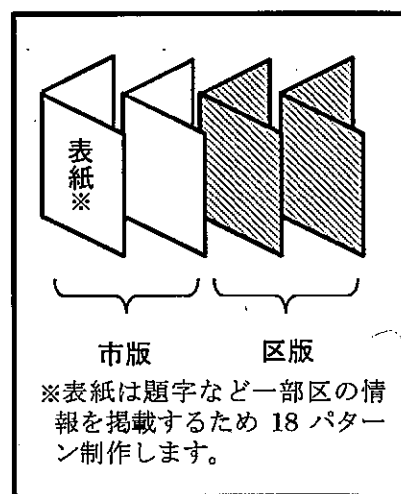
1 趣旨

「広報よこはま」のあり方につきましては、平成22年度の事業評価会議での結果を受け、平成23年度に民間事業者による調査委託を実施するなど市民局において紙面構成変更の検討を行ってきました。

この検討における、①市版と区版の連携・一体感がない、②市版紙面が窮屈で魅力がない等の意見を踏まえ、来年度から以下のとおり展開を図っていきたいと考えています。

2 新紙面構成等

- (1) 横浜市の広報としての一体性を保ちながら、各区版の個性が発揮できるように左開き一方向として、区版を真中に挟み込む構成とします（右図参照）。
横書きで統一することでホームページ案内やアルファベット表記の読みやすさも改善します。
- (2) 市政情報の多様化、局からの掲載依頼件数の増加に対応するため、市版のページ数を4ページから区版と同等の8ページに増加します。
- (3) フルカラー・2色刷の混在と全ページフルカラーとの経費差がほとんどなくなったため、全ページをフルカラー化し、媒体価値の向上を図り広告料を増収します。
- (4) 市版の増加に伴う、重量・厚みの増加に対応するため、軽く薄い紙に変更します。
- (5) 経費増額への対応として、各局特別号の一部を市版の増ページ部分に割り当てる等、広報全体で経費増にならないように工夫します。



3 実施時期

平成25年5月発行号から

■平成 22 年度横浜市事業評価会議の結果

実施日時：平成 22 年 8 月 3 日（火） 9 時 30 分から

テーマ：市政広報のあり方

構成員（敬称略、下線が当日出席）：

公募市民	<u>小林創</u> 、 <u>白石寿行</u> 、 <u>関口雅志</u>
有識者	<u>大野功一</u> （関東学院大学学長）、 <u>重田麻紀子</u> （横浜市立大学国際総合科学部准教授）、 <u>吉備カヨ</u> （株式会社ジョビア代表取締役会長）、 <u>大谷清</u> （東京工業大学特任教授）
市会議員	<u>黒川勝</u> ・ <u>山下正人</u> （自由民主党）、 <u>小粥康弘</u> ・ <u>高梨晃嘉</u> （民主党）、 <u>仁田昌寿</u> （公明党）、 <u>井上さくら</u> ・ <u>若林智子</u> （無所属クラブ）、 <u>大貫憲夫</u> ・ <u>関美恵子</u> （日本共産党）、 <u>山田桂一郎</u> ・ <u>田中紳一</u> （ヨコハマ会議）

当日の意見要旨（広報よこはま関連部分）：

- ・縦があったり横があったり、一見非常に取っつきづらく見づらい構成だ。（関口委員）
- ・区の情報と市が発信しなければいけないものは分けて考えるべき。重複情報の整理が必要（山下委員）
- ・町内会加入率が年々減少している。配布への影響についても対策が必要（吉備委員）
- ・広告掲載についても戦略的に考えるべき（黒川委員）
- ・文字が小さすぎる。情報量を増やすだけでなく見やすく伝えることが必要（仁田委員）
- ・特別号の回数を増やすよりは毎月のページ数を増やすことを考えるべき（大谷委員）

■市政広報媒体のあり方調査委託の結果

実施時期：平成 23 年 11 月

委託業者：株式会社電通パブリックリレーションズ

実施内容：・一般の方へのヒアリング（30 名 内訳：市内在住者 24 名、市外在住者 6 名）

- ・広報分野に知見のある有識者（以下の 2 名※敬称略）へのヒアリング
 - 河井孝仁（東海大学文学部広報メディア学科教授）
 - 永井昌代（株式会社プロペラコミュニケーションズ代表）
- ・平成 23 年度の広報に関するアンケート調査結果を踏まえた既存媒体の分析
- ・媒体の方向性と改善提案の作成

改善の方向性（広報よこはま関連部分）：

- ・市版の内容、ページ数ともに拡充すべき
- ・横浜市に関する情報を拡充する
- ・企画、編集、レイアウトを刷新する
- ・配布方法を工夫する
- ・特別号については内容をより充実させ、タイムリーに提供すべき
- ・特別号の配布方法を再検討し、到達率の向上を図るべき